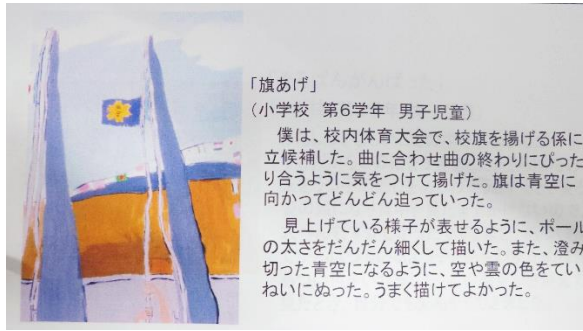


図工・美術教育理論 研修会 終了報告

テーマ	図画・工作科、美術科における適切な学習評価の在り方	
日時	令和 5年 7月20日(木) 14:30～	
会場	石狩教育研修センター	
講師	工藤 雅人 氏 (肩書:)北広島市立大曲小学校 校長	
参加者	25名	
研修会 の 様子		<p>まず、初めに学習評価の話になる前に、「図画工作科・美術科が義務教育の必修教科にある意味とは？」と私たちに問われました。クラブ活動でも選択教科でもいいと思われがちな教科で、「図画工作の教育はなぜ必要か」を指導する者が、心得ていなければならないという確認から始まりました。(美術教育の思いは昔から変わることなくあること</p>
		<p>幼い頃は絵を描くのが好きだったのに、他者と比べるような評価をすることで、直観力や創造力を失われてしまうのではという、声掛けについてもお話いただきました。美術科教育は人間形成を目的とする「美術で教える」教育であるということを改めて考えさせられる時間でした。</p> <p>また、教科の目標、内容の系統表を確認しながら、評価についても再確認できました。工藤先生の「学習指導要領は愛読書」と指導要領を作っている人たちの熱い思いを語ってくれました。</p>
		<p>「評価」は授業する教員が責任をもってつけること、「評定」は各学校で決められたものがあると「評価と評定」についても話しされ、参加者もうなずきながら聞いていました。</p> <p>実際に児童や生徒の作品を映し出し、評価の観点を交えながら、お話してくださいました。技術のある生徒作品に対しても、その時間で身についた力の評価となると・・・と、作品の完成度だけでなく過程についても気づかされた時間でした。</p> <p>講演の合間に小グループで交流する時間があり、和やかな雰囲気です話をすることができました。</p>



「旗あげ」
(小学校 第6学年 男子児童)

僕は、校内体育大会で、校旗を揚げる係に立候補した。曲に合わせて曲の終わりにぴったり合うように気をつけて掲げた。旗は青空に向かってどんどん迫っていった。

見上げている様子が表せるように、ポールのを太さをだんだん細くして描いた。また、澄み切った青空になるように、空や雲の色をていねいにぬった。うまく描けてよかった。

作品の「主題」を子どもに委ねること、それに基づく評価をしていくことなど、工藤先生のお話を通して、授業づくりについて、より計画的な評価や準備が必要と実感させられる時間でした。

児童生徒の作品への思い(ことば)からも、「描きたい」が技能や構想につながっていると感じさせられました。



予定時間を過ぎても、参加者からの質問にも一つひとつ丁寧に返答してくださいました。

参加者からは、小学校と中学校では評価については違いがあることがわかった、「評価が難しい」と思っていたが「何がどう難しいのか」がわかっていなかったなど、もっと多くの先生方に聴いてほしかったなどの声がありました。

「美術を教える」という美術的諸能力の育成も大事だが、「美術で教える」という、心育をこの教科でできないことなのではと、誇りに思った研修でした。